

第21回エンタテインメントコンピューティング研究会 参加報告

日時：2011年8月30日(火)

会場：北海道大学 情報科学研究科棟

首都大学東京大学院
修士課程1年 庄司りかさん



私たちは、この度の第21回EC研究会に「多点配置フォトリフレクタによる非接触な顔面入力装置の試作」というタイトルで参加・発表させて頂きました。参加が決まった当初は「研究会」に対して少々重々しいイメージを持っていたため、当日発表するまで不安と緊張で胸がいっぱいでした。しかし、いざ参加してみると発表者の方々の研究内容の面白さや、技術者やアーティストなど立場の異なる様々な方々の活気溢れる議論、そして何より会場の暖かい雰囲気ですぐに緊張がほぐれていきました。

私がEC研究会に参加してとても感動したのが、発表後の質疑応答で有意義なアドバイスをたくさん頂けることです。東洋大学の村田さんによるAR技術を用いた「エンタテインメント性の実用性を考慮したステッカー型マウスシステムの提案とその試作」の発表に対して、AR開発ツール開発者の加藤先生がコメントをされた時は、学生としてこの研究会に参加できたことをとても嬉しく思いました。私たちの発表の際、キグルミについて触れると会場から「実は私、キグルミのアルバイトをしていたことがあるんです」という衝撃の告白が！キグルミの内部構造からアクターの気持ちなど貴重なお話をお聞きした後、会場から「実は僕もキグルミのバイトをしていました」という二度目の告白が続き、意外な展開で会場が笑い声に包まれました。発表する以前は、自分たちの行っている研究の方向性や進捗状況などに不安を感じていました。しかし、研究会に参加したことで、好意的なアドバイスや自分でも気付かなかった改善点を発見することができ、研究に対して自信が生まれ、研究意欲がとても高まりました。これから今回の参加で得た貴重な経験を、今後の研究活動に反映して行きたいと思います。



〇〇参加報告 学生さんが行く！



ENTERTAINMENT COMPUTING 2011



お茶の水女子大学 大学院人間文化創成科学研究科
修士1年 須賀千紘さん

エンタテインメントコンピューティング 2011参加報告

日時：2011年10月7-9日

会場：日本科学未来館

今年で9回目となるEC2011(エンターテインメントコンピューティングシンポジウム)が、2011年10月7日から9日にかけて、日本科学未来館にて開催された。本年度のEC2011は、日本バーチャルリアリティ学会による国際学生対抗バーチャルリアリティコンテスト (IVRC2011) , 及び科学技術振興機構CREST「さわれる情報環境」プロジェクトによるHAPTIC MEDIA 2011と併催された。

さて、本EC2011は、未来館1Fの企画展示ゾーン、7FのみらいCANホール、会議室2の3会場に於いて開催された。1Faの企画展示ゾーンではデモ発表が行われた。デモは8日と9日の2日間に渡り、各日日替わりの内容で開催され、一般の来場者に向けて無料公開された。EC2011と同時開催のIVRC 2011のデモも同会場で開催されていたため、訪れた参加者はEC2011とIVRC 2011の両方の内容を体験することができた。7Fの会場では登壇発表、招待講演が行われた。

招待講演は、2日目にみらいCANホールに於いて行われた。本年は、IAMAS (情報科学芸術大学院大学、国際情報科学芸術アカデミー) 名誉学長である坂根巖夫先生が講演者として迎えられた。「メディア・アートを支える“遊びの精神”—科学と芸術の融合を模索した半世紀の回想から—」と題して行われた公演は、坂根先生自身が取材を通して深く関わってきた世界中のメディアアートの歴史について述べられており、とてもボリュームがあつて興味深かった。今日ではあまり目に触れることのない、黎明期のメディアアートについて、学ぶことが出来た。

また、招待講演後には、同ビル7Fのレストラン「ラ・テール」に於いて懇親会が行われた。EC2011の懇親会では「酔わナイトセッション」と題して、“懇親会内デモ発表”が開催された。懇親会のリラックスした雰囲気の中、個性豊かなデモ発表が披露され、和気あいあいとしたセッションとなった。

EC2011では68件 (含CRESTシンポジウム/オーガナイズドセッション) の口頭発表、59件のデモ展示が行われた。その中で、平井重行、榊原吉伸 (京都産業大学) , 早川聖朋 (フリーランス) らによる、「Bathcratch: 浴槽をこすることでDJスクラッチ演奏を楽しむシステム」は、会場に持ち込んだ浴槽をこすることでDJスクラッチ演奏が楽しめるエンタテインメントシステムのデモを行い、展示発表賞・カンテレー賞・芸術科学会賞のトリプル受賞となった。

また、3日目の全セッション終了後に、「未来館：夜の特別ツアー」が開催された。これは、日本科学未来館自体の展示物をあまり見たことがないという参加者に向けて、専属科学コミュニケーターのトークを交えての科学未来館の展示を見ることができるツアーである。ちなみにこちらの企画は、応募者過多だったため参加券が抽選となり、抽選に漏れた筆者は残念ながら参加することが出来なかった。

尚、次回のEC2012は神戸での開催が予定されている。



デモ会場の様子